

子どもたちの主体性と表現力の育成を「チーム福賀」で！
～学びや人との関わりを大切に～

福賀小学校育友会（P T A）

P T A 名	福賀小学校育友会（P T A）		
所在地	〒758-0612 山口県阿武郡阿武町大字福田下 1544		
会長名	山 本 秀 征	校長名	長 岡 正 紀
会員数	1 0	☎	0 8 3 8 8 - 5 - 0 0 1 4
領域	全校・学年 P T A		
学校地域の 概要・組織	【地域の概要】 福賀地域は標高 3 8 0 m の高地に位置し、県内有数の豪雪地帯としても知られている。周辺の地域と同様に、福賀地域にも少子・高齢化の波が押し寄せている。かつては 3 0 0 0 人以上であった人口も、今では 450 人台へと減少している。そこで、スクールガード活動一つにしても、ご協力いただける方々の高齢化が進み、実効ある体制を確立することが難しい現状の中、校区内で活動をされる高齢者団体、ボランティア団体、婦人会等の協力を得ながら、様々な教育活動を展開している。諸団体には、「福賀ことぶき会」「福賀昭和会」「福賀ほほえみ会」「福賀地区婦人会」「四つ葉サークル」「農村青年協議会」「福賀公民館」「阿武林業振興会」等、本校に協力してくださる団体が多数ある。毎年、各学年におけるふるさと学習や通年行われる読み聞かせ、米作り等の教育活動の他、環境整備作業では普段、手の行き届かない所の作業に協力していただいている。このように学校を大切にしてくださっている分、学校への関心・期待も大きく、日頃からたくさんの意見をいただくことが多い。 【学校の概要】 本校中学校区には阿武中学校（約 60 人）、阿武小学校（約 100 人）、福賀小学校（8 人）があり、阿武町内でも一番児童数の少ない極小規模校である。しかしながら、全校児童の保護者が会員、育友会会員として加入しており、加入状況は 1 0 0 % である。また、保護者は全員が夫婦で加入している。少人数ながらも全員が育友会の活動に参加することで、諸課題について保護者も自分事として捉え、主体的に活動に参加することができている。また、児童の人数が減ってきているため、教職員の数も年々減っているが、環境整備作業日以外での作業を進んで引き受けてくださったり、学校で行う米作りに必要な苗の手配や脱穀、乾燥等の手配を行ってくださったりして、教職員が入れ替わろうとも		

	滞りなく教育活動が行われている。このような保護者の活動の継続が評価され、今年度は令和6年度優良PTA文部科学大臣賞の表彰を受けた。
テーマ	PTAを核とした地域とのつながりの中で豊かな学びを育む
成果と課題	・会員は学校行事への参加にも積極的である。学校行事の中では、保護者が子どもや教職員と一緒に活動を行う場面が多くあり、教育活動がより効果的なものとなっている。また、保護者と教職員とが、行事の内容について協議する場をもつこともあり、保護者の教育活動への高い関心が子どもの学習活動に良い影響を与えている。 ・会員は少人数でよく知る間柄でもあるため、会長・副会長の役員決めや企画会の進行、環境整備作業・広報誌作成の役割分担等が、主体的かつスムーズに行われている。地域にある様々な団体との連絡調整にも、地域とつながりのある会員が声を掛けることで協力が得やすく、育友会は地域と学校との連携、協働を補助する役割も担っている。 ・令和5年度は、育友会会員だけでなく元育友会会員の協力もあり、全日本学校関係緑化コンクールにおいて特選（全国一）を受賞した。 ・多様な活動が様々な方々の力で成り立ってきたが、会員数が年々減る中、資金が乏しくなっていることが懸念事項である。
補助金を助成する取組（又は活動）の内容	○ふれあいもちつき大会 学校田では、保護者や地域の団体を中心に田植え、稲刈り、脱穀等を行っている。今年度も、収穫したもち米を使ってもちつきを行った。PTAを中心に準備（洗米等）・もちつき・パック詰めをした。餅つき機を使っているご家庭も多い中、子どもたちにいろいろな体験をさせたいというPTAの意向で、きねを新調して一人ひとりに餅つき体験をさせることができた。   ○学習発表会「保護者演目」 学習発表会では、学級数2クラスのため子どもたちの発表がすぐに終了してしまう。80人近く集まっていたいただいた地域の方に楽しんでもらうため、全員の

保護者が出演し劇を披露した。歌あり、ダンスありの演目のため、仕事を終わってから数日練習を重ねた。

ダンスの場面では教員も参加することになり、子どもたちも大変驚いていた。親子共に思い出に残る学習発表会になったようだ。



○環境整備作業 5月・8月・6月（プール清掃）

本校では、職員数も少ないため、保護者にもプール清掃を手伝ってもらっている。また、5月の運動会前と夏休み中の年2回環境整備作業を行っている。同じ敷地にあった福賀中学校が平成28年3月をもって閉校となったため、広大な敷地を小学校だけで管理することとなったが、100人近くの地域の方や中高生ボランティアに協力していただくこともある。福賀昭和会の方には、教職員では手の行き届かない樹木の剪定などをしていただき大変助かっている。今年度5月の作業では、町役場からボランティアも多数あったため、道具や燃料が不足した。学校としても、お手伝いいただく地域の皆様が安全に作業できるよう防草シート等を活用したり、時期を見て剪定等を行ったりして、環境整備に努めていかなければならない。これらの活動を日頃からPTAと連携をとりながら行っている。



○わくわくハウスづくり

竹でやぐらを組み、網で囲って、蔓植物を這わせたものをわくわくハウスと呼んでいる。初めは竹等の骨組みだが、植物が育って行くにつれ、まるで緑の家のように変わっていくことがわくわくするので、このようなネーミングになったようだ。理科の植物の観察も兼ねているが、3年連



続で作成しているため、今年度は、さらにわくわくハウスを増築したいという児童の希望があったため植物も増やした。、理科で栽培するヘチマやゴーヤ、生活科で種遊びができるフウセンカズラや1年生のアサガオ等、様々なつる植物が成長し、立派なわくわくハウスとなった。



○選書会

令和3年度から、下関市にある児童図書専門店「子どもの広場」代表で、県内だけでなく、幅広くブックトークを通して、本の楽しさを紹介している横山眞佐子様を講師に招いて、選書会を実施している。この選書会には、育友会委員はもちろん、読み聞かせボランティアの方も参加し、ブックトークの仕方を学んだり、子どもたちに読ませたい本を選んだりする活動を行っている。



毎年、選書会を通して多くの新しい本を購入すると共に、読み聞かせボランティアの方が毎週水曜日に来校され、様々な工夫を凝らした読み聞かせを行っているため、子どもたちの読書への意欲も高まっている。子どもたちにとって、多くの大人に出会うことのできる読み聞かせは、キャリア教育の一環も担える場である。

